

令和6年度 第4回 上島小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月10日（月） 14時00分から16時00分
- 2 開催場所 上島小学校 会議室
- 3 出席委員 加藤 憲司、青木 榮治、山本 暢子、大橋 薫、
森園 大介、神田 朋成、樋口 美佳
- 4 欠席委員 白澤 かおる、有賀 愛
- 5 オブザーバー 伊藤 成明（曳馬協働センター）
- 6 学 校 岩崎 光宏（校長）、竹田 良子（教頭）、
高畠 美保（主幹教諭）、西村 秀澄（担当）
- 7 傍 聴 者 1人
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 清水 遥
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について前回の協議会にて皆様のご意見をいただき、加藤会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）学校評価と次年度への改善策等、及び学校関係者評価
- （2）令和7年度の学校運営の基本方針（案）
- （3）学校運営協議会 自己評価
- （4）令和6年度「夢育やらまいか事業」CS加算分の報告

11 会議記録

司会から、委員総数9人の内7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校評価と次年度への改善策等、及び学校関係者評価

【学校評価】

- ・「子供たちは、善悪の区別や公共のマナーを考えた生活をしていることができる。」や「子供たちは、健康や安全に気を付けて生活している。」について、児童・保護者と教職員とでギャップがあるのはなぜか。（加藤委員）
- ・廊下や教室内で防げる怪我などの事故が多いので教職員の評価が低い。そういったことを児童・保護者に伝えていく必要がある。（主幹）
- ・いじめについては保護者の評価が低く、教職員の評価が高いのはなぜか。（加藤委員）
- ・教職員は聞き取りなどをして100%で対応している。相手が嫌だと感じたらいじめになる。保護者は自分の子供が嫌だと感じた時にすぐ対応してくれるか不安がある。そのため評価が低いので、学校のやり方を伝えていく必要がある。（主幹）
- ・40%くらいの保護者がいじめに対する学校の対応が分からない。学校側の対応が伝わっていないので今後周知徹底していきたい。（教頭）

- ・ 参観会の様子を見て子供たちが今までと変わったと感じた。以前と違い元気に声をかけてくれる。(青木委員)
- ・ 「学校は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。(わたしたちは、いじめをゆるさないクラスをつくっている。)」について、児童の10人に1人が出来ていないと感じているのはなぜか。また、怪我について例年に比べて多いのか。(森園委員)
- ・ 事故は気を付けたら防げるものが多い。他の学校に比べて多いわけではない。いじめについては自分に都合が悪いことは言わなかったりするため、アンケートなどの聞き取りによって事実確認をしてしっかり対応していくことが必要。(主幹)
- ・ 保護者の方が理解するのが難しい。道徳・学活などで事例をやってみる。参観会等でやれば保護者にも伝わりやすいかと思う。(大橋委員)
- ・ 全体を通すと良くなっている。先生方が努力されているのを感じる。(加藤委員)

【次年度への改善策等、及び学校関係者評価】

- ・ 2-3のページに出てくる自己肯定感と自己有用感とは。(森園委員)
- ・ 自己肯定感とは自分にはこういう良いところがある、こういうことが出来るということ。自己有用感とは集団活動の中で役に立てている、人との関わりの中で自分の良さが出せているということ。(教頭)
- ・ 子供たちが教育活動の中で自己有用感を感じるのはどういうものか。(森園委員)
- ・ 係の仕事をして友達に感謝されたり、委員会活動をして学校全体が良くなっていると感じたりするなど小さなことから自己有用感が生まれる。良いこと見つけなどで子供たちに伝えていくことが教職員の役割である。(教頭)
- ・ 居場所とはここは楽しいなと思えるところだと思うが、不登校の子はその居場所がないと感じている。(加藤委員)
- ・ 集団や勉強が苦手な子だったり、人との関わりが苦手な不登校になってしまったりする。いじめが原因とは限らない。本校では発達支援教室と校内学びの教室と2つの受け皿がある。人と関わるのは嫌だけど学校には行きたいという子が別室で登校するなど、それぞれにあった居場所を作って対応している。(教頭)
- ・ 学校公開日を今まで数日間にわたって設けることがなかったが、今回取り組む理由は。(森園委員)
- ・ 保護者の方が気軽に来て話をする場を設けたい。日によって来られない方もいるので数日間で実施する。これからは学校を地域公開していく時代なので、その前段階として取り組む。(主幹)
- ・ 学校公開日について旗振りの方にも声をかけてみては。(森園委員)
- ・ 子供たちや保護者の方にも地域のこんな方たちが旗振りなどを知ってもらうために紹介したらどうか。接しやすくなるのでは。(大橋委員)
- ・ 今後、中学校区の健全育成会の広報誌「曳馬の子」を来年度から形を変えて出す予定。その中では地域で子供のために活躍している方(旗振りをしている方や民生委員の方など)を記事にしていこうと考えている。(教頭)

・PTA からも毎年6年生を対象として交通安全リーダーと語る会があり、日頃からお世話になっている地域で旗振りをしている方に改めてお礼を言う機会にしている。保護者に旗振りのアンケートを取ったが、やりたくない人が多い。地域の方々が頑張っているのに自分達がやらないわけにはいけないので保護者への投げかけとして地域の方を紹介している。地域の方々の協力に守られていて、つながりは大事。(神田委員)

(2) 令和7年度の学校運営の基本方針(案)

・朝、校門の前で校長先生が立って子供たちと笑顔で挨拶をしている姿を見ると、子供たち一人一人を大切にされているのを感じて嬉しく思う。子供の良い現れや認識が低いいじめについて保護者にたくさん発信していけたら良いと思う。(山本委員)

・アンケートの取り方について保護者の立場からすると、仕事が忙しくこれだけの項目を一気に見せられると答えが曖昧になってしまう。小出しにしていくと丁寧に答えてくれる確率が高い。子供の学校での様子はさくら連絡網で十分知らされている。アンケートの結果の数字は一概に保護者みんなが思っていることではないのではないかと思う。時間がない時に答えるので偏ったものになってしまうという評価になるのでは。

(神田委員)

・アンケート項目は少なく出来るのか。(加藤委員)

・項目を少なくすることはできる。必要な項目についてアンケートをとっているので学校内で話し合う必要がある。(主幹)

・いじめの対応について教職員が100%出来ていると回答しているということは自信の表れだと思う。(神田委員)

・上島小学校のグランドデザインを昨年度と比較すると、教員の働き方改革について新たに追加されているが、学校内だけの調整で変更出来るのか。(森園委員)

・基本的には学校内での調整になるが、当校では特定の職員への負担が大きくなっているため、さらなる調整が必要。具体的な中身についてはこれから検討する。(校長)

・子供の学校での様子をこまめに報告してくれるので、とてもありがたい。(樋口委員)

・地域と学校との接し方が分からないが、学校としてはどう考えているか。(加藤委員)

・来年度からは運動会や参観会などにまずは参加していただき徐々に広げていきたい。

(教頭)

・具体的にどんな手伝いが必要か示してほしい。(加藤委員)

・家庭科や図画工作などの授業で地域の方に手伝ってもらえるとありがたい。年内計画をもとに整理して提示したいと思う。(教頭)

令和7年度の学校運営の基本方針(案)について拍手多数で承認された。

その他報告事項等

- ・司会から、来年度の予定について第1回運営協議会は、2025年4月18日(金)に開催する旨の報告があった。